

パブリックコメントの結果公表

様式2

施策担当課→市民活動団体支援室

案件名	「第2期 藤枝市DX推進ビジョン」(案)
「第2期 藤枝市DX推進ビジョン」(案)に対し、ご意見をいただきありがとうございました。 提出された意見の内容(要約)及び意見に対する市の考え方は次のとおりです。	

パブリックコメントの結果

(1) 意見提出者の数	1人
(2) 提出された意見の数	3件

意見の反映状況

(1) 反映した意見	3件
(2) 既に盛り込み済みの意見	0件
(3) 今後の参考とする意見	0件
(4) 反映できない意見	0件
(5) その他(質問含む)	0件

意見の反映状況一覧

No.	意見の内容	市の考え方	反映結果
1	現状のKPIは「オンライン化率」や「オープンデータ数」など、行政側のアウトプットになっているため、市民がどれだけ便利になったかという「住民満足度」や「QOL(生活の質)」の向上を測る指標を入れたほうが良いかと思えます。(福岡市のように、LINE公式アカウントの利用数だけでなく、「手続きが完了するまでの時間短縮」や「満足度アンケート」をKPIに)	本ビジョンにおける全体のKGIとして、市民満足度を設定し、アンケートを実施します。	反映した意見
2	DXが進むほど「デジタルに不慣れな層」の疎外感を埋めるため、「誰一人取り残さない」とありますが、そのための具体的リソース(予算・人員)が不足しているため、例えば、市民が計画策定から参画する「リビングラボ」のような仕組みを盛り込むといいかもしれません。デジタルデバイド対策の具体化:高齢者へのスマホ教室だけでなく、大学生や企業ボランティアを巻き込んだ「デジタル推進員」の地域配置など、コミュニティを巻き込む施策を強化されることが、市の経費削減と地域の人材活用にも繋がるかと思えます。	地域で支え合う体制の構築に向けた検討について、下記のとおり追記します。 「誰一人取り残さない持続可能なデジタルデバイド対策の実現に向け、地域の人材や団体等と連携し、地域で支え合う体制の構築に向けた検討を進めます。」	反映した意見

3	<p>生成AIの活用が盛り込まれていますが、リスク管理と職員のスキルセットについて、AI導入による「業務時間削減」は書かれていますが、余った時間を「どのクリエイティブな業務（市民対話など）に充てるか」という再配置（リコンフィグレーション）の視点が必要かと思しますので、単なる「要約」や「下書き」だけでなく、横須賀市のように「市民からの複雑な相談に対する回答支援」など、対人サービスの質を高めるための活用を強調するのはどうでしょうか。</p>	<p>AI導入により創出した時間の再配置について、下記のとおり追記します。 「効率化により創出された時間でデジタル技術を活用した市民に寄り添う新たなサービスの検討・創出に取り組みます。」</p>	<p>反映した意見</p>

意志決定後の計画、策定案の内容

資料	第2期藤枝市DX推進ビジョン（案）
----	-------------------

意見公表場所	<p>①市ホームページへの掲載 ②市役所行政情報コーナー・文化センター・岡部支所・各地区交流センターでの閲覧 ③（市役所東館4階 情報デジタル推進課）での閲覧</p>
--------	---

担 当 課	<p>藤枝市 企画創生部 情報デジタル推進課 DX推進係（担当者 杉本） 電話 : 054-643-3259（内線2752） 電子メール : johoh@city.fujieda.lg.jp</p>
-------	---